令和2年度　学校経営計画に対する自己評価計画書（最終報告）　　石川県立門前高等学校

重点目標　①　主体的で対話的な深い学びの実現をめざして、ICTを活用した授業改善を図る。

個別目標	具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準				判定	分析（成果と課題）及び今後の対応策	備考
・基礎学力及び家庭学習の定着	・生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善の促進	教務課 進路指導課 各学年	・生徒の授業態度は概ね良好だが、自ら学び理解を深める意識の醸成が必要である。	【成果指標】（生徒） 「私は事前に予習や宿題等の授業の準備をして臨んでいる」	「私は事前に予習や宿題等の準備をして授業に臨んでいる」と評価した生徒の割合（①+②）が A　７５%以上 B　６５%以上 C　６５%未満	① ② ③ ④	必ず準備をして臨んでいる だいたい準備して臨んでいる あまりやらずに授業を受けている 全くやらずに授業を受けている	20% 51% 22% 7%	B	【分析】学習習慣が身に付き自主的に取り組む生徒がいる反面、あまり身についていない生徒もいる。課題提出が出来ていない生徒への支援が必要である。 【今後の対応策】課題提出ができていない生徒の共通理解を持ち、課題提出率を上げる。またつまずきがあり学習が一人でできない生徒には、個別指導をする。	生徒対象調査 （7，1月）
・生徒の思考力・判断力・表現力の向上	・生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善の促進	教務課 進路指導課	・生徒の授業理解度は高いが、今後自分の意見を発信し相手と対話しながら物事を進める力を身につける必要がある。	【成果指標】（生徒） 「根拠に基づき、自分の意見を表現する（発表する）力が身についた」	「根拠に基づき、自分の意見を表現する（発表する）力が身についた」と評価した生徒の割合（①+②）が A　８５%以上 B　７５%以上 C　７５%未満	① ② ③ ④	身についた だいたい身についた 余り身についていない 全く身についていない	15% 74% 8% 3%	A	【分析】7月に調査した時より②と答える生徒が増えた。発表型の授業や自分の意見を表現できる課題が増えたことで表現する力が概ね身についたという実感が高まってきている。 【今後の対応策】課題に対して「なぜ？」と考える活動を継続し、自分の意見を根拠を持って述べる機会をさらに設ける。	生徒対象調査 （7，1月）
	・門高読書タイムや図書館講座の実施	図書課 教務課 進路指導課	・読書活動を通して生徒の思考力･表現力･判断力の下支えする力を養成する必要がある。	【成果指標】（生徒） 「年間３冊以上の本を読んだ（読書タイムに読んだ本も含む）」	「年間３冊以上の本を読んだ」と答えた生徒の割合（①）が A　６０%以上 B　５０%以上 C　５０%未満	① ② ③ ④	３冊以上読んだ ２冊読んだ １冊読んだ １冊も読まなかった	36% 34% 27% 3%	C	【分析】2冊以上の割合も４割程度で、3冊以上も少ない。 【今後の対応策】読書タイム期間に限らず、教科指導等の場でも積極的に学校図書館を活用したり、各クラスに本を設置するなど、本を身近に感じられる環境づくりを行う。	生徒対象調査 （7，1月）
・教員の授業力及び資質・能力の向上	・教員による「学校評価アンケート」の結果に基づく授業改善	教務課 進路指導課	・新学習指導要領が求める生徒の資質・能力を育成するために、教員の探究的な学習指導スキルの向上が必要である。	【成果指標】（教員） 「生徒の思考力・表現力を高めるために発表型の授業を実施している」	「生徒の思考力・表現を高めるために発表型の授業を実施している」と評価した教員の割合（①+②）が A　８５%以上 B　７５%以上 C　７５%未満	① ② ③ ④	実施している 概ね実施している 余り実施していない 全く実施していない	30% 55% 15% 0%	A	【分析】発表型の授業を実施することで、生徒の思考力・表現力を高めようとする教員の意識が高まった。 【今後の対応策】互見授業や小中学校の公開授業、研修を通じて自己研鑽の啓発を継続していく。	教員対象調査 （7，1月）
	・生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づく授業改善の促進			【成果指標】（生徒） 「ＩＣＴ機器により授業の理解度が高まった」	「ＩＣＴ機器を効果的に使っている」と評価した生徒の割合（①+②）が A　８５%以上 B　７５%以上 C　７５%未満	① ② ③ ④	実施している 概ね実施している 余り実施していない 全く実施していない	60% 33% 7% 0%	A	【分析】ＩＣＴ機器の利用率は非常に高く、ほとんどの授業で毎時間使用し定着してきた。 【今後の対応策】生徒がＩＣＴ機器(クロムブック)を授業内で使えるように環境の整備を行う。	生徒対象調査 （7，1月）
学校関係者評価委員会の評価	ICT活用の授業の生徒の評価がとても良い。 読書冊数が少ないのはどうしてか。										
評価結果を踏まえた今後の改善策	（教務課） 今年度は新型コロナウイルスの影響で、夏休みの期間が短く、例年なら夏休みに読書量が増えるが、今年度はその時間が少なかった。読書習慣の啓発の強化や、年二回の読書タイムを通じて読書量を増やしていきたい。										

重点目標　②　キャリア教育の充実と３年間を見通した学力の向上計画によって、多様な進路実現を図る。

個別目標	具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準		判定	分析（成果と課題）及び今後の対応策	備考
・進路意識の醸成と早期確立	・外部講師によるキャリア教育講演会 ・クリエイティブ人材育成事業 ・企業人インタビューＤＶＤの活用 ・インターンシップ ・進路講演会 ・進路学習 ・上級学校キャンパスツアー	進路指導課 各学年	・働くことの意味や自分の適性を理解して、将来の進路設計を立てる力を養成する必要がある。	【努力指標】（生徒） 「自分の適性を十分に把握し、将来の進路について話すことができるようになった」	「自分の適性を十分に把握し、将来の進路について話すことができるようになった」と評価した生徒の割合（①＋②）が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	①　できるようになった　39% ②　だいたいできるようになった　45% ③　ほとんどできない　15% ④　全くできない　1%	A	【分析】７月時点（①18%②68%③12%④3%）から①の割合が多くなっている。 【今後の対応策】①の割合がさらに多くなり、③④の割合が少なくなるよう、来年度も、進路について調べたり表現したりする機会を設けていく。	生徒対象調査 （7，1月）
・個に応じた学習指導の充実による進路実現	・習熟度別授業 ・放課後補習 ・個別指導	進路指導課 教務課 各学年 各教科	・多様な進路志望の生徒に応じた指導の更なる充実が求められている。 ・大学進学を目指す生徒への個に応じた学習指導の向上が求められている。	【成果指標】（教員） （１・２年生） 「対外模試の成績を伸ばすことができた」	「対外模試の成績を伸ばすことができた」生徒の割合が Ａ　７０％以上 Ｂ　６０％以上 Ｃ　５０％以上 Ｄ　５０％未満	７月と１月ベネッセ総合学力テストの比較（全国偏差値） １年生：６９％（国数英３教科） ２年生：７６％（国数英３教科）	１年生 Ｂ ２年生 Ａ	【分析】１・２年ともに、多くの生徒が成績を伸ばすことができた。 【今後の対応策】上位層については、国公立大学を見据えた指導を継続していく。中下位層については、基礎基本を確実に定着させていく。	対外模試結果
				【満足度指標】（生徒） （３年生） 「卒業後の自分の進路について満足している」	「卒業後の自分の進路について満足している」と評価した生徒の割合（①＋②）が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	①　満足している　54% ②　だいたい満足している　37% ③　余り満足していない　9% ④　全く満足していない　0%	A	【分析】ほとんどの生徒が進路について満足している。 【今後の対応策】生徒の幅広い進路希望を実現するため、今後も個に応じた指導を継続していく。	生徒対象調査 （7，1月）
・クリエイティブ人材育成事業による生徒支援の充実と進路実現	・ふるさとへの愛着心を涵養し、能登の産業に貢献する意欲を持った人材を育成する企業見学、講演会、校内研修会の実施	進路指導課 全教員	・就職を希望する生徒の大半は地元を希望するが、進学後に地元就職を希望する生徒は少ない。	【成果指標】（生徒） 「企業見学・講演会等により能登の産業について理解を深め、地元産業に貢献する意欲を持つことができた」	「企業見学・講演会等により能登の産業について理解を深め、地元産業に貢献する意欲を持つことができた」と答えた生徒の割合(①＋②)が Ａ　８５％以上 Ｂ　７５％以上 Ｃ　６５％以上 Ｄ　６５％未満	①　できた　32% ②　まあまあできた　60% ③　余りできなかった　2% ④　できなかった　6%	A	【分析】各取組を通じて地元産業への理解は深まっているが、７月時点（①42%②43%③9%④6%）から①の割合が減少した。 【今後の対応策】来年度に向けて、行事を精選し、地域貢献というねらいをさらに明確にしていく。	生徒対象調査 （7，1月）
学校関係者評価委員会の評価	３年生の進路先状況から、多様な進路実現を達成させている。								
評価結果を踏まえた今後の改善策	（進路指導課） 最終進路状況は、国公立大学４名、私立大学・短大９名、公務員２名、民間就職８名（地元就職６名）、看護医療系専門学校５名、専門学校６名、他１名であった。今後とも、生徒一人ひとりの多様な進路実現に向けて、更なる指導力の向上と改善を図る。								

重点目標　③　ワークライフバランスを取りながら、部活動やボランティア活動によって、学校の活性化を図る。

個別目標	具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準				判定	分析（成果と課題）及び今後の対応策	備考
・教員の働き方改革の推進	・部活動年間計画、月別活動計画作成及び見直し ・計画的、協働的な校務の推進 ・定時退庁日の設定 ・最終退校時間の設定と実践	全教員	・教員の多忙化解消に向けた取組の実践が喫緊の課題である。	【成果指標】（教員） 「最終退校時間を意識した業務の推進に向けて、計画的・効率的に校務を行っている」	「最終退校時間を意識した業務の推進に向けて、計画的・効率的に校務を行っている」と答えた教員の割合（①＋②）が Ａ　８５％以上 Ｂ　７５％以上 Ｃ　６５％以上 Ｄ　６５％未満	① ② ③ ④	行っている 概ね行っている 余り行っていない 全く行っていない	40% 40% 10% 10%	B	【分析】２０％が行っていないと答えている。 【今後の対応策】効率よく業務をこなせるような工夫をすることと、特定の教員に業務が偏らないようにしていく。	教員対象調査 （7，1月）
・各種行事・諸活動への自主的参加	・各種校内行事 ・学校企画の諸活動 ・学校祭等の生徒会活動	生徒会 総務課	・どの活動においても概ね意欲的に参加しているが、より自主的な活動になるよう指導し、良好な人間関係形成や自己有用感の向上につなげる。	【成果指標】（生徒） 「各種校内行事に自主的に参加し、自己の役割を果たした」	「各種校内行事に自主的に参加し、自己の役割を果たした」と実感できた生徒の割合（①＋②）が Ａ　８５％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	① ② ③ ④	果たせた だいたい果たせた 余り果たせていない 全く果たせていない	56% 34% 7% 3%	A	【分析】役割を果たしたと感じている生徒が８０％という数値であった。 【今後の対応策】役割を果たせていないと感じる生徒もいるので、どの生徒でも積極的に参加できるような具体的な取り組みを考える。	生徒対象調査 （7，1月）
・部活動を通した人間力の育成	・競技力、表現力向上を目指した日々の取組	生徒会 部顧問	・限られた時間を有効に活用し、競技力・表現力の質の向上を目指すことで個々の人間力を高める。	【成果指標】（生徒） 「自主的に部活動に取り組むことで、自分が成長した」	「自主的に部活動に取り組むことで、自分が成長した」と感じた生徒の割合（①＋②）が Ａ　８５％以上 Ｂ　７５％以上 Ｃ　６５％以上 Ｄ　６５％未満	① ② ③ ④	できた だいたいできた 余りできていない 全くできていない	65% 28% 3% 4%	A	【分析】日々の活動で、自分の様々な成長を自覚できている生徒が多い。 【今後の対応策】全くできていないと答えた生徒が増えているので、何らかの役割を与えるなど成長を感じられる環境づくりを行う。	生徒対象調査 （7，1月）
・ボランティア活動による地域・他者貢献意識の高揚	・總持寺参道清掃 ・海岸清掃 ・暑中見舞い、年賀状作成、等	総務課 生徒会 全校生徒	・部活動単位でのボランティア活動には参加しているが、今後自主的に参加する姿勢を涵養していく。	【成果指標】（生徒） 「参道清掃・海岸清掃などの学校行事も含めた各種ボランティア活動に年３回以上参加した」	「参道清掃・海岸清掃などの学校行事も含めた各種ボランティア活動に年３回以上参加した」と答えた生徒の割合（①）が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	① ② ③ ④	３回以上参加した ２回参加した １回参加した 全く参加していない	42% 28% 27% 3%	D	【分析】ボランティア活動という意識が薄いため自覚を持って取り組めていないのではないか。 【今後の対応策】個人でも参加できるような環境をつくる。普段の活動に対する意識づけを行う。	生徒対象調査 （7，1月）
	・各種地域行事への参加	総務課 ボランティア部	・過疎化が進み、独居老人が増えている。そのお年寄りたちの参加する各種地域のイベントに積極的に協力することで他者や地域貢献の精神を涵養する。	【満足度指標】（生徒） 「ボランティア活動を通して、他者や地域への貢献の意義を理解できた」	「ボランティア活動を通して、他者や地域への貢献の意義を理解できた」と答えた生徒の割合（①＋②） Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	① ② ③ ④	できた だいたいできた 余りできていない 全くできていない	49% 39% 8% 4%	B	【分析】数値は改善されたが、意義を理解していない生徒が数名いる。 【今後の対応策】各行事の意義を教員側から伝えるなど、活動への意識を高める。	生徒対象調査 （7，1月）
学校関係者評価委員会の評価	普段からのボランティア活動の参加に対して、感謝している。生徒のボランティア意識が高まるようにしてほしい。										
評価結果を踏まえた今後の改善策	（総務課） 学校行事等でもさまざまなボランティア活動を行っているが、生徒自身がそれをボランティア活動と認識していないと考えられるので、生徒の認識を高められるような活動を行いたい。										

重点目標　④　安心・安全な学校づくりを推進する。

個別目標	具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準				判定	分析（成果と課題）及び今後の対応策	備考
・いじめの早期発見・早期対応	・いじめに関する校内研修 ・生徒観察、生徒との人間関係づくりによる早期発見・早期対応 ・いじめ調査の実施	生徒指導課 教育相談 教員全員	・昨年度は認知無しだったが、「いじめは起こりえるもの」の意識を教員が常に持ち、未然防止に尽力する。 ・生徒の自己有用感を高め良好な人間関係づくりを進める取組を継続する。	【成果指標】（教員） 「研修会等によって、いじめ問題について理解を深め、予防的生徒指導に結びつけている」	「研修会等によって、いじめ問題について理解を深め、予防的生徒指導に結びつけている」と答えた教員の割合（①＋②）が A　９０％以上 B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	① ② ③ ④	できる 概ねできる 余りできない 全くできない	35% 60% 5% 0%	A	【分析】いじめの早期発見のための取組として、年１０回のいじめアンケート調査の実施、保護者・教員による情報交換等を行った。 【今後の対応策】来年度は、早い時期に研修等を行い教員の共通理解を図り、できると答えられる教員を増やす。	教員対象調査 （7，1月）
・スマートフォン等によるネットトラブルの未然防止	・スマートフォン等によるネットトラブル研修	生徒指導課 教育相談 教員全員	・校内での使用ルールは浸透しているが、家族との連絡以外に放課後使用する生徒が依然見られる。今後もスマートフォン等の危険性を説明し、指導を継続しながら生徒自身がその危険性を意識できるようにする。	【成果指標】（生徒） 「私は校内でのスマートフォンや携帯電話の使用ルールを守っている」	「私は校内でのスマートフォンや携帯電話の使用ルールを守っている」と評価した生徒の割合（①＋②）が A　９０％以上 B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	① ② ③ ④	守れた だいたい守れた 余り守っていない 全く守っていない	66% 32% 1% 1%	A	【分析】７月と比較すると「守れた」が減少し、「だいたい守れた」が増加した。 【今後の対応策】登校時や下校時の使用やSNS等の安全な使用の仕方について、継続的な指導が必要である。	生徒対象調査 （7，1月）
				【成果指標】（教員） 「私はスマートフォン等のネットトラブルの危険性を理解し、指導に生かしている」	「私はスマートフォン等のネットトラブルの危険性を理解し、指導に生かしている」と評価した教員の割合（①＋②）が A　８５％以上 B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	① ② ③ ④	理解している だいたい理解している 余り理解していない 全く理解していない	60% 30% 10% 0%	A	【分析】ネットトラブルに関する研修を通して、危険性を理解し指導に生かされた。 【今後の対応策】生徒の使用マナーについては、校内での使用の仕方も含め、すべての教員が生徒に対して適切に指導が出来るようにせねばならない。トラブルの内容も多様化してきているので、研修および共通理解の場を設けていきたい。	教員対象調査 （7，1月）
		保護者	・使用時間・内容など、スマートフォン（携帯電話）等の使用のルール作りについて、継続して家庭での協力を求める。	【努力指標】（保護者） 「家庭でスマートフォンや携帯電話等の使用の仕方について話し合い、実践している」	「家庭でスマートフォンや携帯電話等の使用の仕方について話し合い、実践している」と評価した保護者の割合（①）が A　７０％以上 B　６０％以上 C　５０％以上 D　５０％未満	① ②	実践した 実践していない	72% 28%	A	【分析】７月よりも数値が高まった。 【今後の対応策】生徒アンケートでは家庭のルールは決まっていないという生徒も多いので、情報発信の仕方などをさらに工夫し、さらなる啓発に努める。	保護者アンケート （７月、1月）
・通学時の交通安全	・自転車マナー指導 ・教職員・ＰＴＡによる街頭指導 ・交通安全に関する調査	生徒指導課	・自転車マナーに関する指導を受けた生徒は昨年度いなかったが、保護者・地域の方にも協力を仰ぎながら今後も生徒の規範意識向上に取り組む。	【努力目標】（教員） 「生徒の交通安全意識向上のための指導として、街頭指導の参加、普段の日の登下校時での交通安全の声かけなどを積極的に取り組む」	「生徒の交通安全意識向上のための指導として、街頭指導の参加、普段の日の登下校時での交通安全の声かけなどを積極的に取り組んだ」と答えた教員の割合（①＋②）が A　９０％以上 B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	① ② ③ ④	できた だいたいできた 余りできていない 全くできていない	45% 35% 10% 10%	B	【分析】グッドマナーキャンペーンを通して、交通安全に対する指導力向上を図った。 【今後の対応策】来年度は、通学路の安全確保と安全な通学の仕方を関連させた指導力の向上を図り、安心安全な学校づくりにさらに努める。	教員対象調査 （7，1月）
学校関係者評価委員会の評価	生徒指導は大きな問題がなく、このまま継続してほしい。 ネットトラブルについて、状況はどうか。										
評価結果を踏まえた今後の改善策	（生徒指導課） 現在、学校内でスマホ使用に関するネットトラブルは認知していない。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、非行防止教室等の講話が開催できなかったので、来年度は実施して、生徒の意識も高めていきたい。										